

## TOPIC | 1 | 「住宅外皮マイスター」資格制度がスタート

(一社)住まいの屋根換気壁通気研究会(理事長=神戸陸史ハウゼコ社長)は、「住宅外皮マイスター」資格制度を立ち上げ、2021年11月に第1回試験を実施する。住宅外皮には、外部から浸入する雨水や内部で発生する結露に起因する劣化への対策、また、設計施工面で防水、通気換気を両立するための広範な知識と応用力が求められる。こうした外皮設計に求められる知識、技術を明らかにし、所定の研修を終了し、資格試験に合格した者を「住宅外皮マイスター」として認定する。

国土交通省国土技術政策総合研究所の宮村雅史氏が問題作成WGの主査を務め、そのほか、(一社)日本建築材料協会、(一社)日本防水材料協会、NPO法人日本ホームインスペクターズ協会、全国サイディング事業協同組合連合会、全国陶器瓦工業組合連合会、日本透湿防水シート協会なども参加する。

受験資格は、木造住宅の外皮設計、工事、資材製造供給、



住宅外皮マイスター制度について解説する(一社)住まいの屋根換気壁通気研究会の神戸理事長

検査、研究に関わる実務経験が5年以上の者。試験及び講習科目は「建築材料(湿式外壁・乾式外壁・屋根仕上・シーリング材料)」、「建築各部構造」、「法規基準および制度」、「防耐火」、「検査・点検・補修」、「断熱および防露」、「室内換気」、「防水」、「防霉・防蟻」、「雨仕舞・屋根換気・壁通気」。2021年6月に講習会および試験の申し込み受付を開始。8月に講習会、11月に本試験を実施。12月に試験結果を公表する。

## TOPIC | 2 | AGC、200億円かけて協創型の研究棟開設

AGCは総工費200億円をかけて、AGC横浜テクニカルセンター内(横浜市鶴見区)に、社内外の協創(コラボレーション)を加速させる協創空間「AO(アオ/AGC OPEN SQUARE)」を設けた新研究棟をオープンした。

新設した研究棟のコンセプトは「社内外にシームレス&融合・反応・協創の場」。これまで横浜市鶴見区と横浜市神奈川区羽沢町の2カ所に分散していた基盤技術開発・新商品開発・プロセス開発・設備技術開発の機能を集約・統合し、研究開発のスピードを大幅に向上させる。

また、他の企業や研究機関と協創できる空間を設け、新領域の開拓や新たな価値創造の実現を目指す。4階建て、総面積4万5000㎡の新研究棟の約半分はAGC独自の価値創造を推進する社員専用エリアが占め、残り半分に、取引

企業のほか、アカデミア、ベンチャー企業など、社外パートナーとのコミュニケーション研究、プロトタイプング(試作)を行うオープンエリア「協創空間AO」を設けた。協創空間AOには、AGCと外部パートナーを「つなぐ」場として、1階には、AGCの素材や技術を生かしたインスタレーションなどを展示する「AO Gallery」を設置。2階の「AO Park」には、建築用の板ガラスから5G関連製品まで、過去から現在に至る素材開発の歴史を展示し、対話スペースも設けた。

社会の変化が加速する中で、いかに求められる素材、技術、機能開発のスピードをアップさせるか。AGCが新研究棟に整備した協創空間AOがオープンイノベーション創出の場として注目を集めそうだ。

## 住生活産業の総合情報誌「ハウジング・トリビューン」 Housing Tribune

「ハウジング・トリビューン」は他紙誌にはない個性を持った月2回刊の住生活産業の総合情報誌です